

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902546		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム 春光		
所在地	旭川市春光5条6丁目5-20		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

〈力を入れている点として〉夏季は特に外気浴、散歩、外出行事等外に出る機会を日常的に支援できるよう努めている。日常のホーム内の行事や食事などに、来訪されたご家族の方々も気軽に参加していただけるよう配慮している。
 〈アピールしたい点として〉母体が医療法人のため、医療との連携がスムーズで健康管理面で安心していただける。グループホームは住宅街の一角にあり、向かいには大きな公園や地域の避難場所、幼稚園、小学校などにも近く、地域の方に接する機会が多い。併設の認知症対応型デイサービスや高齢者円滑入居賃貸住宅と、合同で行事を開催し交流を持てるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902546&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同系列医療法人が地域の実情に合わせ、求められる暮らしの空間の必要性を感じ開設されたグループホームです。認知症対応型デイサービスと高齢者円滑入居賃貸住宅が併設されており、グループホームの利用者も様々な行事に参加し、交流を深める楽しみの機会となっています。地域には美術館や記念館に隣接している大きな公園があり、日常の散策や日光浴で欠かせない場所となっています。ショッピングに出かける時も適度な距離で、住宅街の中の恵まれた環境となっています。医療法人が同系列にあり、通院していた利用者もおり、家族も安心して暮らしています。往診により身体状況と生活の様子が直接見て取れ、職員の報告で医師との連携が密に行われています。職員も利用者についての気付きを大切に、積極的に意見や提案を出し、日々のケアに努めています。今後も利用者の思いに応えられる地域の福祉拠点として、期待出来るグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した事業所の理念。毎朝引継ぎ時に復唱し実践にむけ心掛けている。	開設時に職員は、尊厳を大切に考えたホーム独自の理念を作成し、リビングに掲示しています。毎朝全員で唱和することで共有を図り、日々のケアの実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加させて頂いたり、運営推進会議で意見交換するなどし、地域とのつながりを深められるよう努めている。	利用者と一緒に町内の清掃作業に参加したり、近隣の公園で開催されるグリーンコンサートの見学、地域で組織された活動の防災訓練にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて理解を得られるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見交換、話し合いの中での要望や提案を取り入れて実践していくよう努めている。	運営推進会議は定例開催を継続し、利用者・家族代表・地域包括支援センターの職員・介護支援専門員の参加で、状況報告や意見交換が行われサービスの質の向上に活かしています。	運営推進会議の内容について、会議開催の意義理解とホーム運営への協力を頂くため、欠席したメンバーや利用者の家族への送付が望まれます。ホームの中で、同じ生活を営んでいる利用者・家族が、情報を共有できる取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと、情報交換や研修、運営推進会議などで連携をとりながら、グループホームに協力していただいている。	地域包括支援センター職員や市担当課とは、問い合わせや相談を行い、常に連携を図っています。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供が寄せられています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り拘束のないケアを心掛けている。事故等の危険がある方については、ご家族に説明し了承を得たうえで、定期的には又は随時検討している。職員研修も行なっている。	身体拘束関連マニュアルが整備され、職員も身体拘束のないケアについて理解しています。現状の対応についての経過観察や検討を含め、家族にも報告しています。職員一人ひとりが、年2回身体拘束ケアについて自己評価を行い、対応について確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、事業所内での虐待のないよう注意をはらい、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる方は入居されていないが、今後対象となる場合に対応できるよう、研修会に参加し学び、支援する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、入居後も不明な点や疑問等はその都度説明し、安心、納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者については、日々の暮らしの中で、ご家族は来訪時等にお聞きし、反映するよう対応している。外部への意見等の反映については契約書にも明記し説明している。	毎月送られる職員からの手紙や面会時の報告で、利用者の日常の様子が伝えられています。帰省や外出等で協力も得られ、信頼関係作りに努める事で意見を運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見、要望を見聞きし、業務改善等に反映するよう努めている。	管理者は他の職員と一諸にケアに関わり、定例会議では、職員の意見や提案が積極的に出され、それを大切に扱い、利用者の生活の質向上・ホームの運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みや意欲などが把握出来るよう、年に2回人事考課を行っている。勤務表作成時には、予め希望の休みを把握し安心して休めるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質や状況を見極め、個人に合わせた内部、外部研修等に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や内部研修では同法人の他事業所との研修会を開催し、交流や情報交換しながら、お互いのサービスの向上、個人のスキルアップにも役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば、入居前にホームの見学をしていただいたり、面談で要望や状況を伺い不安等が和らぐよう努めている。職員は事前に基本情報を把握することで、初期から細やかな対応ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、見学、面談時に、ご家族の要望、不安等に思われていることを把握し、入居後のことを含めた話し合いを重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で本人、家族の状況に応じて、他のサービスも含めて説明し、検討、判断していただけるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた「できること」を見極め、職員と一緒に行動していく中でお互いに支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、家族に来院、行事、受診等本人の事では協力を頂いている。本人の大きな支えとなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出での馴染みの関係継続については、ご家族に協力いただき支援している。ホームへの来訪時は、心おきなく過ごせるよう配慮している。基本情報にも関係を明記している。	利用開始前の生活環境を大切に、主治医への受診、家族と帰省・墓参りや初詣、友人の訪問、馴染みのスーパーへ買い物など、以前の関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の入居者の状況に応じてホールでの席替えや居室の変更、行事での組み合わせ等検討し、穏やかに入居者同士が関わり合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、関係性を大切にし、必要に応じて本人、家族の支援や相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と日々の情報交換の中で意向や要望を聞き取りし、把握に努めている。	センター方式の活用で情報を収集し、状況把握に努めています。利用者の細かな行動や会話・気付きを利用者本位の計画に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人、家族に協力頂き、生活歴・既往歴等の経過や状況を基本情報としてまとめ、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、引継ぎを重ね現状を常に把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、意向等伺い、実際の生活状況等を考慮しながら職員間でも検討し、介護計画を作成している。	利用者・家族の意向を尊重し、利用者本位の介護計画を作成しています。毎月の会議ではモニタリング・評価・見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づきケアの実践、結果を記録、報告し職員間で共有している。会議を通じて評価、計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室がある場合は、ショートステイの受け入れをしている。併設のデイサービスや高円質とも連携し利用者が安心して過ごせるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニに歩いて買い物に行ったり、馴染みの店まで出掛けたりしている。警察の協力を得たり町内清掃参加など個人に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と希望のかかりつけ医の受診について話し合い、家族にも協力を得ながら継続できるよう支援している。	主治医の往診や看護師による月2回の健康観察が行われ、家族の安心と利用者の生活が、医師と確認出来ています。眼科や皮膚科等の他科の受診についても職員が同行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院より訪韓が定期的に来訪し入居者に接しながら心身の状態のチェックを行なっている。気軽に相談でき、アドバイスを受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には家族も含めて病院関係者と情報交換、相談に努め、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、かかりつけ医等と何度も十分に話し合い、その都度変化にも対応出来るよう職員間でも方針を共有し支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針・方針が整備され、ターミナルの経験から、個別ケアマニュアル作成と現状に即した対応を、職員・家族等と十分に検討できる体制となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練、夜間時の対応、急変時など、定期的に訓練している。AED講習にも参加し体得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の災害訓練にも参加し、地震・水害時などの災害にも対応できるよう地域の一員として対応出来るよう努めている。運営推進会議でも地域の方と避難場所の確認等行なっている。	緊急通報システム設置や避難訓練、夜間想定訓練、通報訓練、救急救命各種講習も行っています。災害時の地域協力要請・系列事業所連携・備蓄品の確保など行われています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持ち、対応、言葉掛けなどに努めている。職員間で情報交換する場合は部屋番号を使用するなどし、プライバシーに配慮している。	職員は、日常業務において、利用者には不快な思いや誇りを損なわないように十分配慮しています。記録についても指名が分からないように、部屋番号で表すなど工夫をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で表現が難しい方については、様子や表情などからくみ取ったり、ご家族にも伝えながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを把握し、生活暦等を考慮しながら、「快適」「安心」と感じて過ごせるよう個々に合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で、馴染みの美容室へ出掛けたり、本人の希望で毛染めをするなど、個人の状況に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い拭き、おやつ作りなど、出来る事を一緒に実践できるよう支援している。	委託業者の献立で職員が調理し、利用者は下準備や片づけを手伝い、職員と一緒に食事をしています。行事食や外食で食の工夫もしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事、水分、体重、排泄などの記録をし、状態に応じた食事形態や食事時間などに対応し、栄養や水分が摂れるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせたケアを行なっている。自力で行なえる方も、不十分なところは介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせて、できるだけトイレで排泄できるよう介助している。排泄パターンを把握することで失禁を少なくし紙パンツ等の使用を減らすよう支援している。	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、タイミングを図りながら、声かけ誘導により、利用者の自立にむけた支援を行っています。夜間も利用者本位の個別支援となっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をもとに、食事量、水分確保や活動量の支援、主治医の指示のもと便秘薬の使用も含め、個々に応じて予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は入浴日を決める事で入居者の混乱が無く支援できている。時間については個別に対応している。今後も入居者の状況に応じて曜日や日数、時間帯に対応していく。	週2回入浴日を設定していますが、身体状況に合わせた入浴・清拭・シャワー浴も適宜対応しています。時間をかけ、ゆっくりと入浴できる工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室やみんなが集まるダイルームでも個々に心地よく休める場所で休息していただけるよう配慮。夜間も安眠できるよう状況に応じて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別記録に定期薬、臨時薬など薬の説明書を常備し確認している。体調管理や変化を観察、記録し把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などからも把握し、様子を見ながらその都度本人が出来る事好んでいる事・物を楽しめるように支援している。裁縫・掃除・畑・散歩・花壇・買い物など。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診、美容室、自宅、買い物、外泊等、ご家族にも協力して頂き行なっている。ホームでの外出行事では本人の希望を考慮した場所にも出掛けている。夏季はホーム周辺に日常的に散歩や外気浴が出来るよう支援している。	利用者が、四季を感じ取れるよう散歩やドライブ・買い物・グリーンコンサート見学等、戸外へ出る機会を多く作っています。体操などで冬場の体力維持を図り、家族の協力で墓参りや帰省の機会も支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでのお預かり金については個人に合わせて使用して頂いている。本人が持参してきたいとの希望がある場合は家族と相談し所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に応じて対応している。手紙をやりとりされる方がいないが、家族に暑中見舞いや年賀状を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて不快、混乱に繋がるものはできる限り排除。オムツ類は新聞紙に包み廃棄。台所がホーム中央にあるため調理の臭いや音が感じられる。オール電化でトイレ、浴室も一定の温度に保っている。季節ごとに装飾品を変え四季の移り変わりを感じて頂ける様努めている。	リビングには季節に合わせた装飾が施され、調理されている匂いを感じながら、利用者は安心して暮らしています。採光、室温や気になる臭いもなく、利用者は憩いの空間として、職員と一緒に心地良く日中を過ごせる空間となっています。湿度については、維持管理に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用イス、ソファ、食卓テーブルなどをホームの各所に配置し、思い思いに休息、談話が出来るよう入居者の状況等にも合わせて変化させている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談し今まで使用していた家具や道具、食器、寝具、仏壇など馴染みや愛着のあるものを引き続き使用できるよう支援している。居室内は本人の動線も考慮し状況に応じて配置換えを行ない過ごしやすいよう工夫している。	居室には、電動ベット・カーテン・リネン類が用意されています。収納スペースもあり、仏壇、家具など思い出の品々が持ち込まれ、落ち着いた居室になっています。住み慣れた家に近い環境で生活できるように、装飾も個性的な居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きく「トイレ」と表示したり内玄関には鈴を付け出入りが分かるように工夫している。バリアフリー、手すり、オール電化など安全面に配慮している。		